



学校・生活・勉強・進学情報満載!

# あむーる

島根県立松江北高等学校1R学級通信 第3号

## No.3



## 岡野雅行の生き方

東京・墨田区の一隅にある小さな町工場の社長・岡野雅行さんの所へ、日本の一流大企業、NASAやペンタゴンから仕事のお願い詣でが絶えない。従業員たった3人の工場である。学歴は中学校中退。金型やプレス加工で「世界一の職人」を自認する男である。ウォークマンの電池ケース、スーパーコンピュータを使って「理論的に不可能」と大学教授に言われた「痛くない注射針」もこの人の開発作品。「深絞り」の分野ではこの人にかたう人間はいない。この人の本をずっと読み続けてきたが、勉強になる所が多かった。最近『学校で教えてくれないお金を生む発想法』（朝日新聞出版）が出て早速読んだ。特に印象に残った箇所を紹介する（下線部参照）。こんな生き方をすればいいんだね! ▶▶



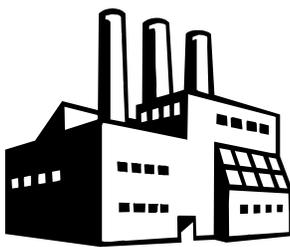
▲岡野雅行さんの最新刊

★今週はお金のお話です。やはり「生き方」が重要なんですわ。



●俺のまわりを見まわしてみると、当たり前のことなんだけど、お金が集まってきている人はみんなちゃんとした人だよ。どういふ風にちゃんとしているかという、まずはものごと一つひとつすべてに誠実に対処する人だ。安い仕事だからといって、やっつけ仕事でやったり、手を抜かない。  
●情報収集にはいくら金をつぎ込んででもかまわない。それくらいの気持ちでいれば、その情報は血となり肉となり、いつか自分にプラスとなって返ってくる。  
●一見したところムダだと思えるものにもドンドン金を使って、見たり聞いたり食べたりすればいい。いやむしろ、そうしなきゃいけない。ムダだったなんてことは、あとになってわかるんだ。後知恵だよ。そのときには、それがムダなのか、有益なのか、すぐにわかるわけないんだ。これはムダだと排除した瞬間に、ひょっとすると大きな可能性を捨ててしまったのかもしれない。ただし一つだけ気をつけてくれ。ムダなものにお金を使うのと、ムダ遣いは違うからね。そこだけは勘違いするなよ。  
●仕事なんて辛抱して続けていけば必ず成功するんだよ。成功できないやつは、途中で辛抱が足りなくなって、集中力を切らしたり、おざなりにするから失敗するんだ。  
●辛抱に加えて、好奇心がないと絶対に成功しない。成功しようと思うんなら、この二つを大事にしないとイケない。つまり、頭を常に使いながら辛抱を続けるんだ。  
●仕事をしていくうえで、一番大事なのは人間関係なんだよ。人間関係でその人の運命が上に向いていくか、下向きになるか決まるんだ。人間関係を大事にすれば、絶対成功すると俺は思う。古いやつだと思われるかもしれないけれど、人とのつきあいはちゃんとしないとかなきゃいけない。それを疎かにすると、大きな人間にはなれない。  
●苦労なんて、若い頃には望まなくても向こうから勝手にこっちに押し掛けてくる。わざわざ買ってまで苦労することなんか無い。  
●これは俺の天職じゃない、なんて言って辞めていく人間は、悪いけど一生天職に出会わないね。仕事の深さがそんなに簡単にわかるわけじゃないか。しかもまだ尻の青い、世間のことを何もわかってない

い若いやつに、すぐに見きわめられるはずがない。いろんな人生経験をしたうえで、やっと少しはわかるもんだよ。  
●仕事もそうだよ。最初の仕事を、まずは自分の全力でやってみて、もうダメだということまで頑張ってみるんだ。「一所懸命」にやってみるんだよ。そうすれば、そのときに実は自分のレベルが一段上がったりするんだ。それが進歩なんだ。  
●人様から何かしてもらったときに、その場でお礼を言うのは当たり前のことだ。それだけでなく、必ず四回はお礼を言いなさい。その場でお礼を言う。「昨日はありがとうございました」「先週はありがとうございました」「先月はありがとうございました」「先月はありがとうございました」  
●人間はアリの部分と、キリギリスの部分、両方持ち合わせてないと本当はイケないんだよ。アリのようにコツコツしっかり働くまじめな人間も、キリギリスのように歌う遊び心がないとダメだし、成功しないんだ。  
●金っていうのは、自分の頭を使って考えて、自分の手で稼いでこそおもしろいんだ。そして、自分で稼いだ金だからこそ、それを使うのも楽しいんだ。  
●経験にしても、ムダな経験というのは人生には一つもないよ。必ずどこかで役に立ってくる。お金儲けもおんなじだよ。どっちみちそんな簡単に金儲けはできないんだ。それならば、遠回りをしたほうが、こちらも経験も豊富になり、どんなことにも対応できる。  
●お金儲けをしようとするなら、無欲でいかなないとダメなんだ。  
●遊びが先か、仕事か先かで悩むんじゃないよ。仕事に熱中してれば、遊びも楽しくなるんだよ。そういう気持ちで仕事をしないと、どちらも中途半端になって、仕事は辛い、遊びはおもしろくないという、つまらない人生を送ってしまうぜ。



- 情報は金なりだよ。金を払ってでも人と会うんだ。そしてなんにでも好奇心と探究心を持って接していくんだ。そうすればおのずとアンテナが張れて、そこに引っ掛かってくる情報もいっぱい出てくるよ。
- だから環境が悪いと言って次に行ったら、また不満が出るだけだよ。環境のせいにしたってダメなんだ。まず自分を変えていかなきゃ、なんにも変わらない。
- そしてもっと大事なことは一度できた人間関係を、絶対に何があっても切らないことだ。
- 金儲けのためというより、まずは人と誠意を持ってつきあっていけば、いつかはそれが花開くことになる、ということを覚えておかなきゃいけない。
- 人生なんて失敗と挫折の繰り返しなんだから、少々のことでめげたら、少しも先へ進めないよ。前向きで楽天的な気持ちでいりゃいいんだ。
- 安定を思っていると不安になる、一所懸命やっていけば、それが力になり、自力、自信になるから安定する。それがわからないといつまでたっても不安は消えないよ。
- 動機が不純なものはいつか必ず消えていくよ。
- 計算高い人間になっちゃいけない。計算すると計算間違いを必ず起こす。計算しなければ、計算間違いは起こらないんだ。
- お金のことを考えると、お金は逆に近寄ってこないんだ。
- この仕事は俺しかできないんだと、心に言い聞かせて進むんだ。
- だから大事なことは、会社の中でオンリーワンになることを、ずっとイメージして、それに向かって仕事をし続けることなんだ。そうすれば本当に会社の中で、唯一無二の存在としてナンバーワンになるんだよ。



## 本多静六の秘訣

▼「国立公園の父」と呼ばれる本多静六農学博士（東京大学教授）は、毎月給料の中から四分の一はなにかしたのとして、貯蓄に回したんです。それを長年続け、貯まったお金を寄付してできたのが日比谷公園。その後も貯蓄を続け、さらに寄付をしています。若いときにこの話を聞いて実行したところ、とても有効でした。



おすすぬ

# 大谷君は語る



理数科3年 大谷 慧

今回の高校生太平洋島サミットでは、水のありがたさ、国際交流による相互理解の大切さ、ツールとしての英語の重要性を感じました。交流して分かったのですが、キリバスでは海水淡水化施設が少なく、水不足が起き、パラオでは水質会社での停電で水が1時間も出ないことが頻繁にあるそうです。いつでも水が欲しい時に出てくるという日本の当たり前が、世界では恵まれているということ、世界が抱える水問題を改めて知りました。

今やグローバル化を世界が果たし、グーグル検索で世界を知り、フェイスブックやスカイプで世界とつながることができます。しかし、実際に海外の人と交流してみてもなかなか分かれ、友だちになって初めて国際問題におけるお互いの立場を真剣に理解し、お互いに助け合おう、一緒に解決しようという方向にもっていきけるのではないだろうかと感じました。現在、世界の外交は自国の利益が優先されたものか、うわべだけの助け合いになっていますが、国際交流を通じてこそ、国々が本当の共になれると思いました。

今回、サミット中の使用言語は英語だけでしたが、久しぶりの実践の場で最初は特に自分の意見を表現することに苦労しました。また、文字だと簡単な英語も会話だと聞き取れなくて困ったこともしばしばありました。しかし、英語というツールがなかったら、海外からの30人の高校生参加者に意見を言うことも、相手の意見を知ることにも出来ないと思うと、英語は大学に合格するためのものではないなと感じました。これからも、道具として最大限に活かせるよう英語を磨いていきたいです。☺☺☺☺

【裏話】サミット最終日に、海外の高校生とペアで宮古島にホームステイしたのですが、ホストファミリーが英語を使えず、通訳みたいなことをしました。それぞれの言いたいことを不足なく伝えるために、かなり神経を使って聞くことが大変でしたが、そのおかげで英語がかなり聞きやすくなりました。聞き取れないと投げ出さず、注意して聞くことも英語の上達には大切なことだと実感しました。

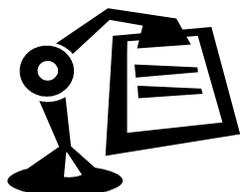
# 文章・心得



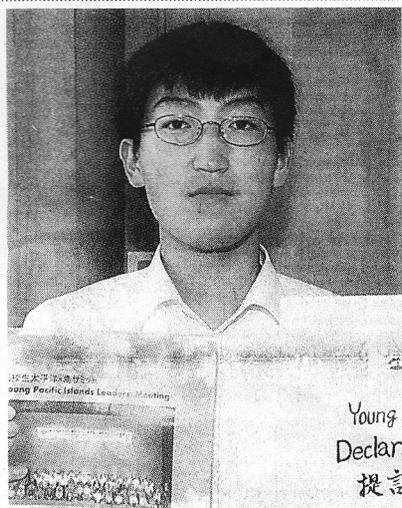
読書感想文を審査して思うこと。「いい文章を書くにはどうしたらよいか？」私はいつも次の二つのことをアドバイスしている。感想文でも、小論文でも、志望理由書でも、卒業論文でも、論文でも基本的には同じだと思う。(1) 沢山書いてそれを圧縮する！私は10倍書く。それをドンドン切り捨てながら文章を縮めたものにしていく。こうして出来上がった文章は読む人が読めば分かるもの。当然それだけの分量を書くには材料が必要。そのために本を読むのだ。(2) 何か一つでいいからキラリと光る観点、情報を盛り込むこと。これは恩師の安藤貞雄先生の教え。私はほぼ毎日「チーム八ちゃん」のブログを更新しているが、こんなわずかなスペースの文章を書くにもこの二つを忘れずに実践している。あのスペースの約10倍の量を下書きに書き、推敲してあれだけの量に絞り込む。さらに必ず、先生方の知らない「情報」「新発見」「物の見方」を盛り込んでいく。ご覧あれ。

●「チーム八ちゃん」ブログ ●

<http://teamhachchan.wordpress.com/>



# ひと



Young Pacific Islands Leaders Meeting 提言

環太平洋地域の高校生が沖縄県に集まり、環境問題をテーマに討論する「高校生太平洋・島サミット」に島根県で唯一参加し、オーストラリアやニュージーランドなど15の国と地域の60人の高校生と、各地が抱える「水問題」を話し合った。小学生の頃から環境問題への関心を持ち、これまでもラムサールセンターが主催する湿地交

高校生島サミットに参加し環境問題の改善を目指す松江北高3年生

おおたに けい 大谷 慧さん

流事業「KODOMOラムサール」など、環境イベントに積極的に参加してきた。他国の高校生と話し合う中で、パラオでは、電力不足による停電で断水が日常的に起こっていることを知り、「一口に水と言っても、問題は国ごとに違って違う」と実感。同時に開かれた首脳サミットの参加者に対して、「各国の水問題の情報を共有することが重要」と、高校生を代表して提言した。サミットから帰り3カ月。将来は「世界で水問題に苦しむ人を救う仕事したい」と意気込む。合唱部に所属しながら、環境問題に取り組める大学への進学へ向け勉学に励む。松江市春日町、17歳。

▲『山陰中央新報』8月27日 2012年

●理数科3年生の大谷 慧くんは2012年5月23日から26日まで沖縄・宮古島で「高校生太平洋・島サミット」(Young Pacific Islands Leaders' Meeting)に参加してきました。そのときの感想をレポートしてもらいました。



# 先輩のアドバイス

～こんなふうに勉強してみたら～



■英語の問題を解けるかどうかは、そのまま単語が分かるかどうかを意味していると思う。ただ単に英単語を日本語に直せるというだけで満足せずに、辞書を引いて使い方を調べて、例文を書き写すぐらいのことができるといい。暇があれば、英々辞典を引いてみることもお勧めです。

(東京大学 理科Ⅱ類 井後 雅博)

■一番苦手だったのはリスニングです。リスニングの勉強では、とりあえず毎日英語を聞きました。教材や模試のCDなどたくさんあったので、それらを利用して朝や寝る前など、決めた時間に毎日聞くようにしました。ただ聞くだけでなく、ディクテーションやシャドーイングなどできる限り行いました。

あとやってよかったと思うことは、辞書や参考書など、一度調べたところしるしをつけたり、書き込みをしたりしたこと。しるしがあると、前もこの語句調べたことがあるな、この語は何回も調べているな、などといったことが自分で分かるし、自分の字の書き込みは印刷されたものよりも目につきやすいです。そういうきっかけがあると、その内容が頭に残りやすかったです。

また、分からないことがあったら、先生の所へ自らどんどん質問するべきです。積極的に先生に頼るのがきっとよいと思います。

(東京大学 理科Ⅱ類 吉川阿佳里)